●河野勝彦さん
原発は危険で、今すぐに停止し廃止に向かうべきです。電力エネルギーは、可能な限り再生可能エネルギー源を活用することによって賄うように政策推進すべきです。２００９年より「固定買い取り価格制度」が設けられ、太陽光発電の普及も進みましたが、発電システムが乗っている屋根の数はまだまだ少数にとどまっています。そして今年１１月には、この制度の期限を迎えて買い取り制度から外れる施設が出てきます。これを何とかしなければ、せっかくの勢いが削がれてしまいます。再生可能エネルギーのシステムも機械ですので、耐用年数があり、その更新も必要となります。持続可能な制度にしていく必要があります。

●宇宙に平和を！地球ネット理事　藤岡惇さん
宇宙エネルギーの９９％は原子核に由来。原子力というのは「宇宙の火」なのです。地球生命圏に降りて来た「妖龍」が、福島ではとぐろをまいています。線量が一時低下しても、天変地異・戦争があると、いつ立ち上がってくるか分かりません。ゴジラの警告を共有しましょう。

●龍谷大学教員、日本科学者会議京都支部　細川孝さん
大震災からすでに８年、いまだに被災地の復興は不十分であるにも拘らず、原発の再稼働が強行され原発ビジネス（海外輸出）が推進されています。 そのようなもと、今年も多くの方々が「バイバイ原発３・１０きょうと」にご参加され、脱原発の思いを新たにされることを大変心強く思います。一昨年７月に国連で採択された「核兵器禁止条約」の発効もわたしたちの課題です。 原発と核兵器という「二つの核」は、人類と共存できません。この課題にもご一緒に取り組んでまいりましょう。

●日本科学者会議京都支部　山口進次さん
「原発は核保有国への道」
福島第一原発事故が起こるまでは、政府や電力会社は口をそろえて「温暖化対策のため、ＣＯ２削減の切り札として、最もクリーンな発電は原発だ」と言ってきました。さすがに事故後はそんな見え透いた「うそ」は通らなくなりました。それでも安倍政権が原発に固執するのはなぜでしょうか。安倍政権が推し進める日本の軍国化に、原発が必要だからです。原発でできたプルトニウムは、核兵器の原料になります。日本が核兵器禁止条約を批准しないのもそのためです。

●原発ゼロをめざす左京の会　小野英喜さん
「文科省の「放射線副読本」は、間違っている」
文部科学省は、福島原発事故で飛散した放射線は安全だと子どもたちに教えるために「放射線副読本」を作った。その内容は、「放射線でガンになるリスクは、野菜を食べなかった場合や塩分の高い食品を食べた時のリスクと同じ程度」とか、「日本の食品の放射性物質基準値は世界で最も厳しい」と書いてある。これらは誤った知識を子どもたちに押しつける。私達大人は、子どもたちが原発や放射線の正しい知識と判断力を身につけるように取り組みたい。

●ＮＨＫ・メディアを考える京都の会事務局長　中川勉さん
スペイン政府が２０３５年までに原発全てを閉鎖するすることを発表したとの記事を目にしました。私の連れ合いの弟夫婦は福島・伊達市で織物業を今もしています。彼らは事故後２年間各地に避難、最後は滋賀県日野市までたどり着き、避難施設の最後の一人となるまでおりました。避難しながら織物を続ける場所を探して移動してきましたが、結局は不安な福島に戻らざるを得ませんでした。とっても心配でなりません。

●反戦老人クラブ・京都　山田耕作さん
「文科省の『放射線副読本』を教育の場から追放しよう」
福島原発事故の健康被害は政府の被隠隠しの下でも増加し続けている。にもかかわらず、加害者である政府と東電は被曝被害者を冷酷に切り捨てている。政府は加害責任の追及から逃れるために、「放射線副読本」という「放射線安全」のデマ宣伝書を発行し、国民を洗脳しようとしている。保護者・教育者・科学者は被曝の真実を語り、子ども達の未来を守れ。

●元京都大学講師　樫田忠衛さん
先日、地震調査委員会が日本海溝沿い地震の長期評価を更新し、３０年内にＭ７～８弱の地震が高確率で発生すると公表した。これを見て、１９７３年に小松左京のベストセラーを映画化した「日本沈没」を思い起こした。映画の中で科学者が日本列島は日本海溝の断崖絶壁に立っているようなもので、太平洋側のプレートが動けば日本は日本海溝の中へ崩れ落ちてしまうと言っていた。そんなところへ原発という危険なものを置くのは正気の沙汰ではない。

●龍谷大学社会学部教授　荒木美知子さん
集会に参加されているみなさま、連帯のメッセージを送ります。
私はこの数年、関西に自主的に避難されている方たちへの聴き取り調査を続けています。
自分と家族、とりわけ子どもたちの健康と健やかな成長をというささやかな願いを“自主避難”という形で行使しているみなさんの思いを足蹴にする権利は誰にもありません。一人ひとりの声は小さくともそれを束ねていくことで大きな力を発揮します。歴史はみなさま方の声を必ずすくい取り、刻んでいくでしょう。その一助となればと考えています。
どうぞ、こころと身体の健康に気をつけて。

●竹内医院医師　竹内由紀子さん
原発問題から目をそらさず、対峙することは、気力・体力を要することです。それでも粘り強く、しぶとく、しなやかに原発反対の声を挙げ続けていきましょう。一人ひとりの声が大きな力を持っています。意見をメディアに、電話やメールで伝えましょう。新聞の投書覧に投稿しましょう。原発問題に無関心な人と対話しましょう。良質の情報を提供してくれるメディアを応援しましょう。政府・権力の暴走を止めるのは、私達市民です。

●自由法曹団京都支部幹事長、弁護士　小笠原伸児さん
福島第一原発事故は、人々の平穏な暮らしを喪失させ、自然環境を破壊し、長期間にわたって深刻かつ甚大な被害をもたらすことを私たちに教えた。しかし安倍政権は、第５次エネルギー基本計画で原発をベースロード電源と位置付け、原発再稼働政策を推し進めている。この安倍政治を後押しするかのように、脱原発訴訟における司法判断も、３・１１以前の原発推進司法へと逆行しつつある。自由法曹団は、原発安全神話の復活を許さず、脱原発、再生可能エネルギーへの転換を求めて皆さんと奮闘する。

●憲法９条京都の会
国連憲章を越える徹底した非軍事の憲法９条には、「二度と戦争を起こしてはならない」という決意とともに、広島・長崎への原爆投下の経験から「文明と核兵器は共存できない」との危機感から、「核戦争を絶対に阻止したい」という願いが込められています。
軍事にいつでも転用されうる原発は、まさに憲法9条の戦力不保持の精神に反しています。９条改憲を許さないこと、それは反原発と表裏一体です。私たちは、安倍改憲にとどめを刺す運動とともに、原発ゼロの社会をめざします。ともにがんばりましょう。

＜議員・政党からのメッセージ（50音順）＞

●泉健太さん　国民民主党衆議院議員
本日、「バイバイ原発３・１０きょうと」のご開催を心よりお慶び申し上げます。
震災や原発事故の記憶や経験の風化が心配される中、原発のない社会を願い、声をあげる貴団体の活動の重要性はますます高まっています。
私も皆様の声を十分に国会に届けることができるよう活動して参りたいと存じます。
バイバイ原発きょうと実行委員会の皆様の更なるご発展と、本日ご参集の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

●倉林明子さん　日本共産党参議院議員
集会にご参加のみなさんに心から連帯のあいさつを申し上げます。
福島第一原発の事故から８年。今も多くの人が故郷を追われ、県内外で避難生活を送っています。第一原発の廃炉作業も進まず、収束とは程遠い現状です。
昨年３月に野党４党が共同提出した、「原発ゼロ基本法案」の一刻も早い国会審議と成立が求められています。
日本共産党はこの法案に全面的に賛成し、ただちに原発ゼロに向けてあらゆる方々と協力し、法案成立に力を尽くす決意です。ともに頑張りましょう。

●穀田恵二さん　日本共産党衆議院議員
「バイバイ原発３・１０きょうと」にご参加のみなさんに心からの連帯の挨拶を送ります。
原発輸出戦略が破たんし、北海道電力のブラックアウト、老朽化した東海第２原発の運転延長・再稼働問題など、ますます「原発ゼロの日本」へと転換する重要性が浮き彫りになっています。
みなさんとの共同した運動を力に、粘り強く野党間の政策一致と合意づくりのため尽力し、野党４党で「原発ゼロ基本法案」を提出することができました。ただちに原発ゼロへ！　力をあわせがんばりましょう。

●福山哲郎さん　立憲民主党参議院議員
多くの方々のご参集の中、「バイバイ原発３・１０きょうと」が開催されますことをお慶び申し上げます。
東日本大震災・原発事故から８年が経ちました。私自身、事故と向き合った政治家の一人として、一度暴れだしたら、人間の手では如何ともしようがない原発を、これ以上日本で稼働することはやめたいと考えています。しかし、今の政権は相変わらず再稼働に固執し続けています。
立憲民主党は、全国各地でタウンミーティングを開催し、「原発ゼロ基本法案」を取りまとめました。すでに国会に提出していますが、いまだ与党は審議に応じていません。
今から処理に数万年かかる核廃棄物を未来に大量に残す権利は、現在生きている私たちにはありません。震災、原発事故の記憶を胸に刻み、今こそ、１日も早く原発のない社会という未来を選択するときです。
本日の集会が原発のない社会に向けた大きな一歩となりますことを心よりご期待申し上げ、メッセージといたします。

●前原誠司さん　国民民主党衆議院議員
「バイバイ原発３・１０きょうと」のご盛会をお慶び申し上げます。ご開催に際し、ご尽力を賜りました関係各位に深く敬意を表させて頂きます。
脱原発へ向けて、現実的に、そして着実に進んでいかなくてはなりません。本会が有意義なものとなりますよう、またご参集の皆様の一層のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

●山本和嘉子さん　立憲民主党衆議院議員
向春の候、皆様にはますますご健勝のことと存じます。このたびの「バイバイ原発３・10きょうと」の開催を心よりお慶び申し上げます。皆様のご尽力に心より敬意を表します。
立憲民主党は基本政策に原発ゼロを一日も早く実現することを掲げ、全国の皆さんと議論しながら、原発ゼロ基本法の制定をめざしてきました。私も、環境委員会所属議員として、原発ゼロに向けて、一生懸命取り組んで参りますので、よろしくご指導頂けますようお願い申し上げます。
結びに、「バイバイ原発３・10きょうと」のご盛会とお集まりの皆様に今後ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いのメッセージとさせていただきます。